

「成田国際空港が被災した場合の代替輸送連絡調整メカニズムの構築のための調査検討会（第3回）」議事概要

日時：令和3年3月10日（水） 10:00～11:00

場所：アットビジネスセンター東京駅八重洲通り 601号室

※事務局より資料の説明がなされた後、意見交換を行った。

〈成田国際空港が被災した場合の代替輸送連絡調整メカニズムの構築に向けた指針（案）について〉

- 被災発生時に必要な入手すべき情報というものを例えば一元化された情報のリソースの中で、関係者がアクセスして、事態に対する対応をできるような体制というのが望ましいと思っている。引き続き、この指針に基づいた今後の被災時の対応体制の構築に向けて、当社としてもそちらに対する適宜必要な対応をしていきたい。

- 今回、「ガイドライン」がより上段の基本的な考えというような「指針」という形で取りまとめられたことを承知した。加えて、事業者ごとの基本的な考えや課題などがまとめられて、かつ情報の発信ツールも整理されたと認識している。以下、航空会社としての立場と航空上屋会社としての立場、両面の部分についてコメントをしたい。まず、航空会社としては、フライト情報として決めたものは発信するという事は変わらないと思われる。上屋会社としては、情報の量と質の幅がかなり広いものが求められているのではないかという感想を持った。それをどう発信していくのかについては、内容と量と精度について、議論があると思うが、専用HPに関しては情報の秘匿性が重要であるとしていたように、やはり情報を発信する上で公共性は考えなければいけないと思う。その上で共有・発信する情報の量と質というのを整理していくのだと思う。いずれにしても、まだまだ整理するポイントがあるという印象を持った。

- 我々も、情報の提供には、もちろん、協力させていただく。ただし、空港会社という空港を管理する立場としては、情報の提供によってさらなる混乱が発生するのを避けることを最優先するという考えである。しかし、さらなる混乱を避けるための情報を提供させていただくことはもちろんできると思う。今後どのような形で、どのような内容の情報を提供していくかが、引き続きの課題と思っている。

- まず、今年度は方向性を示す「指針」をまとめ、来年度引き続き議論を深めた上でガイドラインを作成するのは、非常に現実的な決定だと感じている。引き続き今後も議論させていただければと思う。令和元年の台風による停電が発生した際には、空港周

辺の混乱・被害も深刻であり、各フォワーダーも含めた連携が必要だと感じていたところだが、その後の検討が思うように進んでいなかったのも事実である。今回、このような形で指針を取りまとめてもらったことで、社内でもかなり議論が活発にできるようになった。空港が情報を提供するメーリングリストについて紹介してもらったが、正直、まだ貨物の情報が十分に入っているものになっていない。この点について、情報提供の体制も含めて、社内でも議論を進めさせており、引き続き関係者の方達と議論を深めていきたい。

- 「指針」があるから、「ガイドライン」ができるという進め方は、非常にいいと思われる。空港の災害対策については、これまでの議論では人の安全性等も含めて幅広く言及されてきたが、本検討会のテーマである貨物に特化した指針を出してもらったことで、非常に今後進めやすくなったと思う。共有される情報の内容については、やはり受益者である荷主が必要な情報となっているかを最も重視して考えてもらえればと思う。秘匿性がある情報を出していただく必要は無い。我々フォワーダーにとっては、荷主に対して、今入手できる情報を提供し、また、その情報にブレがないということが非常に重要なため、その点を押さえ、荷主のための情報について、貨物がより安全かつスムーズに動くことを目的として共有されるようになることを目指して、今後ガイドラインの策定に取り組んでいただければと思う。
- 今回の議論の中で一番の関心がある部分は、情報共有の方法である。今回、電子メールと専用ホームページの2点に集約してもらったが、利便性等を考えると、専用ホームページの方が圧倒的に優れていると思う。もちろん、管理者の設定や費用負担等の課題があることは承知しているが、先走ったことを申し上げることを許していただけるならば、最悪『まとめサイト』のような形のものでも致し方ないとも思う。ただし、その前提として、関係者が、指針の「1. 情報共有の内容」で定義した、共有されることが望ましい情報の内容を各社のホームページで網羅していくことが前提の話とはなる。そのような体制にしていければ、専用ホームページの開設が難しくても、最悪『まとめサイト』という形で、メールよりは大きく利便性が高くなるのではないかと感じた。
- 指針として定められたことは有難いことだが、具体的な内容がこの検討会の中で分かるかとも期待していた。少しでも早くガイドラインができることを祈っている。
- 具体的なガイドラインが作成され、さらに机上訓練によってテストされるということで、非常に関心を持っていたが、事情については理解できた。また、テストをされるようなときは参加させていただけるとありがたい。今回の指針の中で共有するとされ

ている情報において、一点気になったのは、運航計画に関する情報の提供についてである。関西国際空港ではフライトの時間などを全部公開されているということで、今サイトでも確認させていただいたが、弊社ネットワークの中のテロ対策の基本原則というのがあり、どの貨物をどのフライトに搭載するかは絶対顧客に知らせないことになっている。これは、ヨーロッパその他のテロ対策の原則のようである。関西国際空港のサイトを見る限り、その内容が直接貨物の内容まで示すものとなっていないので、すぐにとということではないが、テロ側の人間がフライトの離発着の時間やフライト経由国などを把握すると悪用する可能性があり、それに関わる情報の公開については、十分に検討することが望ましいと思われる。

○既に指摘があった内容だが、公共性がある内容で荷主が知りたい内容を正確に発信できる制度を作るという観点から、今回の報告書に入れている「1. 情報共有の内容」の部分において、荷主からフォワーダーへの情報提供などコンフィデンシャルリティが高いような内容に関しては、専用HP等へ発信をするよりも、個社個社で扱っていく内容ではないかと思われる。一点リクエストとして、弊社がこのような資料を受け取ると、英語に翻訳して発信するが、その場合、指針もガイドラインも英語で言うところの「ガイドライン」になってしまう。今後、少なくとも日本語、英語で見て耐えうるワーディングを使ってもらうことが、将来的にこういう緊急の情報発信を行う場合には望ましいと思われる。少なくとも英語、あるいは日・英・中国語で発出する必要があると思う。関空被災時でも、外国人ツーリストにはアップデートな情報が周知されにくいということがあった。

○今回の指針に関しては、最後の「おわりに」にも記載されているが、留意事項や課題が整理されたと認識している。今後のガイドラインの作成にあたっては、議論に参加して、より良いガイドラインにできるよう努めていきたい。

○指針を拝読し、改めて、課題の多さを認識した。特に航空会社からフォワーダー、あるいはフォワーダーから荷主に対して、営業上の機密に当たる情報をどこまでどう開示できるのかが一つの課題になるのではないかと思われる。成田空港の代替輸送を確保するための連絡調整というテーマについては、関空被災時に成田、羽田に集中した貨物が空港あるいは空港周辺に溢れかえった状態だったことを考慮するなら、現実には今の成田の貨物が他の空港に行った場合、他空港で本当に捌ききれぬのかが最大の課題かと思われる。今後のガイドライン策定に向けて、引き続き参画・協力させていただきたいと考えている。

○これだけ様々な課題があることを検討会の議論で知ったところがあったが、逆に言えば、そういった困難な課題に対する、エアライン、空港会社、フォワーダー、インテグレーター等々が、一同に会して初めて本格的に取り組む機会となったのは大変貴重なことであったと思っている。空港会社、航空会社の情報は、ある程度定型になっていると思うが、上屋会社、フォワーダー、荷主の情報という、コンフィデンシャルティが求められる情報をどう共通化し、カスタマイズをしていくのかが、この指針をガイドラインにしていくときの一番大きなキーだと思っている。今後継続するときにはまずそこにフォーカスして検討するというのが大事だと感じた。次に、国の役割が今回は示されておらず、これは前述の情報の取扱いをどうするかが決まらなると難しいとは思いますが、今後は国の役割というテーマも浮き上がってくると思う。一昨年の成田空港の台風の被害の際も、旅客が滞留した時には、国の方でも情報収集、働きかけもやらせてもらっている。先ほど、災害時における対応という観点が重要というお話があったが、まさにそういう時の役割があろうかと思っており、今後そういった検討も必要かと感じた。